

- 問1 日本の室町時代（14世紀～15世紀）における文化や国際情勢について述べた文として、正しいものはどれか。（2019年 沖縄県公立入試 類似）
- 東大寺の大仏が建立された時期に、ヨーロッパではルネサンスが興り、ポッティチェリが活躍した。
  - 足利義満が金閣を建立した時期は、奈良時代と呼ばれ、聖武天皇が仏教による国づくりを進めていた。
  - 足利義満による金閣の建立と、イタリアでのポッティチェリによる『春』の制作は、ほぼ同時代である。
  - 琉球王国で「万国津梁の鐘」が作られた時期は、聖武天皇が東大寺の大仏を造立した時期と重なる。
- 問2 15世紀ごろ、琉球王国が中国、日本、東南アジアの国々の間で行っていた貿易において、各地から集められ、転売された品物の組み合わせとして正しいものを、当時の状況を説明した次の文から選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
- 東南アジアから輸入した綿織物を日本へ、琉球国内で生産した大量の香辛料を中国へと輸出していた。
  - 中国から輸入した大量の銀を日本へ、日本から輸入した陶磁器を東南アジアへと輸出していた。
  - 日本から輸入した刀剣などを中国へ、東南アジアから輸入した香辛料などを中国や日本へと輸出していた。
  - 日本から輸入した毛織物を東南アジアへ、中国から輸入した米を日本へと輸出していた。
- 問3 室町時代後半の京都では、応仁の乱によって荒廃した町の復興を、有力な商工業者たちが中心となって進めました。彼らについて述べた文として、自治の仕組みや文化的な背景を踏まえて正しいものを選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
- 座と呼ばれ、貴族や寺社に税を納めることで、商品の販売や製造の独占権を認められた。
  - 地侍と呼ばれ、農民をまとめて惣村をつくり、領主に対して年貢の減免を求める一揆を主導した。
  - 町衆と呼ばれ、自治組織を結成して祇園祭などの伝統行事を支える文化の担い手ともなった。
  - 会合衆と呼ばれ、濠や土塁を築いて大名の侵入を防ぎ、鉄砲の普及に大きく貢献した。
- 問4 1467年に発生した応仁の乱は、その後の日本の政治情勢にどのような決定的な変化をもたらしましたか。（2026年 栃木県公立入試 類似）
- 将軍の権威が大きく衰退し、実力のある者が上の立場をしのご「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入した
  - 天皇中心の政治を復活させるため、地方の武士が京都に集結し、建武の新政に次ぐ新しい朝廷政治が確立された
  - 幕府がキリスト教の布教を禁止したため、フランシスコ・ザビエルが九州から国外へ追放される事態となった
  - 守護大名が団結して幕府を支える体制が整い、幕府による全国支配がより強固なものとなった
- 問5 日本の歴史における文化的な出来事を説明した記述のうち、室町時代の「東山文化」の特色を正しく説明しているものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）
- 井原西鶴が浮世草子を執筆し、元禄年間に上方を中心とした町人の生活を反映する文化が栄えた。
  - 足利義満が金閣を建立し、公家文化の優雅さと武家文化の力強さが融合した文化が形成された。
  - 足利義政が慈照寺を建立し、禅宗の精神を背景とした質素で落ち着いた趣を尊ぶ文化が広まった。
  - 千利休が茶の湯を大成し、大名や豪商たちが豪華な城郭や障壁画を好む華麗な文化が発展した。
- 問6 足利義満が明との貿易において、わざわざ「勘合」という合い札を導入し、それを照合させる仕組みをとった背景には、どのような事情があったと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
- 輸入品である生糸の価格が高騰するのを防ぐため、幕府が輸入量を一定に管理したかったから。
  - 明の皇帝に対して、室町幕府が軍事的に優位であることを示すための儀礼として必要だったから。
  - キリスト教の布教を目的とするヨーロッパ船の来航を、厳しく制限する必要があったため。
  - 東アジアで活動していた海賊である倭寇と、正式な貿易船を明確に識別する必要があったため。
- 問7 室町時代に東アジアで行われた貿易の歴史を整理した以下の説明文において、空欄にあてはまる人物として最も適切なものを選んでください。「この人物は、室町幕府の第3代将軍として南北朝の合一を成し遂げた。その後、明（中国）の皇帝から『日本国王』に封じられ、正式な貿易船と海賊（倭寇）を区別するために『勘合』という合札を用いた日明貿易を開始した。」（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- 足利義昭
  - 足利義満
  - 足利義政
  - 足利尊氏
- 問8 後醍醐天皇が理想とした政治体制の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）
- 有力な御家人の合議によって政治を行う、鎌倉幕府の執権政治を継承した政治。
  - 征夷大将軍の職を天皇自らが兼任し、武士を完全に統制しようとした軍事政治。
  - 大陸の宋にならって、科挙による官僚登用を積極的に進める文治政治。
  - 天皇自らが政治の実権を握り、摂政・関白や院政といった仕組みを否定した政治。
- 問9 九州の政治・外交の拠点であった大宰府に関連のある人物について、活躍した時期が古いものから順番に並べた組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）
- 最澄 → 菅原道真 → 鑑真 → 足利尊氏
  - 鑑真 → 最澄 → 菅原道真 → 足利尊氏
  - 最澄 → 鑑真 → 菅原道真 → 足利尊氏
  - 鑑真 → 菅原道真 → 最澄 → 足利尊氏
- 問10 鎌倉時代から室町時代にかけて、武家政権の支配力が全国へと拡大していく過程を説明した内容として、歴史的事実に基づいた正しいものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
- 承久の乱で後鳥羽上皇が幕府を倒したことで武家政治は一時中断したが、足利尊氏が南北朝の合体を成し遂げて再び武家支配を確立した。
  - 後鳥羽上皇が隠岐に流される前に南北朝の合体が行われ、それを不服とした守護・地頭が応仁の乱を引き起こして戦国時代が始まった。
  - 源頼朝が守護・地頭を設置して全国支配の基礎を固めた後、承久の乱で後鳥羽上皇を破って六波羅探題を置き、支配を西国まで広げた。
  - 応仁の乱によって幕府の権威が全国に及ぶようになり、守護・地頭が各地の守護大名へと成長して南北朝を合体させた。
- 問11 室町文化を代表する芸能である「能（能楽）」が、単なる庶民の娯楽から、幽玄な美を追求する洗練された芸術へと発展した背景として最も適切なものはどれですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）
- 出雲の阿国が京都の河原で始めた新しい踊りが、当時の有力な大名たちの間で流行したこと。
  - 明（中国）との貿易によって、大陸の高度な演劇理論が直接日本に持ち込まれ、猿楽に融合されたこと。
  - 江戸幕府の徳川家康が、武士の嗜みとして能を「式楽」に指定し、専門の役者を育成したこと。
  - 室町幕府の第3代将軍である足利義満が、観阿弥・世阿弥親子の芸を高く評価し、手厚く保護したこと。
- 問12 後醍醐天皇と足利尊氏の対立に端を発する「南北朝時代」の始まりについて述べた文として、最も適切な背景を説明しているものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
- 元寇（モンゴル人の襲来）の恩賞が十分でなかったため、北条氏を倒した足利尊氏が南方の領土を守るために朝廷を分けたこと。
  - 建武の新政において公家が優遇され、恩賞などに不満を持った武士たちが足利尊氏をリーダーとして反旗を翻したこと。
  - 平氏を滅ぼした源頼朝が鎌倉に幕府を開いた際、朝廷の権力行使を制限するために、吉野に別の天皇を置くよう命じたこと。
  - 織田信長が室町幕府を滅ぼした後、豊臣秀吉が京都の朝廷とは別に、奈良に独自の政権を樹立しようと企てたこと。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                       |                                                                                                                                                                                          |
|-----|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>足利義満による金閣の建立と、イタリアでのボッティチェリによる『春』の制作は、ほぼ同時代である。               | 14世紀から15世紀は、日本では室町幕府が安定し、足利義満が金閣（鹿苑寺）を建立した時期にあたる。世界に目を向けると、この時期のヨーロッパでは古代ギリシャ・ローマの文化を再生しようとするルネサンスが広まっており、ボッティチェリなどの芸術家が活躍した。一方で、東大寺の大仏や聖武天皇の治世は8世紀の奈良時代の出来事であり、室町時代の文化とは明確に区別する必要がある。   |
| 問2  | 答え 3<br>日本から輸入した刀剣などを中国へ、東南アジアから輸入した香辛料などを中国や日本へと輸出していた。              | 琉球の中継貿易では、日本からは刀剣や銅、中国からは陶磁器や絹織物、東南アジアからは香辛料や染料（蘇木など）が持ち込まれ、琉球を仲介して各地へ運ばれました。例えば、日本産の刀剣が琉球を経由して中国へ渡ったり、東南アジア産の香辛料が琉球を経由して日本や中国へ届けられたりしていました。こうした多角的な取引の実態は、当時の外交文書集である『歴代宝案』などからも確認できます。 |
| 問3  | 答え 3<br>町衆と呼ばれ、自治組織を結成して祇園祭などの伝統行事を支える文化の担い手ともなった。                    | 京都の「町衆（まちしゅう）」は、法華一揆などを通じて団結を強め、自治的な組織を運営しました。彼らは単に経済活動を行うだけでなく、茶の湯、連歌、能楽、そして戦乱で中断していた祇園祭の再興など、中世から近世にかけての豊かな都市文化を支える重要な役割を果たしました。会合衆は堺、座は特権的な商工業者組合、地侍は武士化した農民を指します。                    |
| 問4  | 答え 1<br>将軍の権威が大きく衰退し、実力のある者が上の立場をしのぐ「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入した           | 将軍の跡継ぎ問題や有力守護の対立から始まった応仁の乱は、11年間にわたって主に京都を戦場とし、幕府の統制力を完全に失墜させました。これにより、各地で守護代や国人などの下の者が実力で主君を倒す「下剋上」が起り、戦国大名が割拠する時代へと移行しました。                                                             |
| 問5  | 答え 3<br>足利義政が慈照寺を建立し、禅宗の精神を背景とした質素で落ち着いた趣を尊ぶ文化が広まった。                  | 東山文化は、8代将軍・足利義政の時代に京都の東山を拠点として発達しました。この文化は、それまでの華やかな文化とは一線を画し、禅宗の考え方に基づく、静かで控えめな美しさを追求しました。慈照寺の銀閣はその家徴であり、現代の茶道、華道、庭園、そして建築様式である書院造など、日本文化の伝統的な形の多くがこの時期に形作られました。                        |
| 問6  | 答え 4<br>東アジアで活動していた海賊である倭寇と、正式な貿易船を明確に識別する必要があったため。                   | 当時、朝鮮半島や中国沿岸では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明の皇帝は日本側に倭寇の取り締まりを求め、正式な貿易相手であることを証明する手段として勘合の持参を義務付けました。日本側（幕府）としても、独占的に利益を得るために、密貿易を行う倭寇を排除する必要があったという背景があります。                            |
| 問7  | 答え 2<br>足利義満                                                          | 室町幕府の基盤を固めた第3代将軍の足利義満は、1392年に南北朝の合一を実現し、政治的な混乱を收拾しました。外交面では明との国交を樹立し、倭寇と区別するための勘合符を用いた日明貿易（勘合貿易）を始め、幕府の財政を潤しました。足利尊氏は幕府の創設者、足利義政は銀閣を建て応仁の乱の時期の将軍、足利義昭は織田信長によって追放された最後の将軍です。              |
| 問8  | 答え 4<br>天皇自らが政治の実権を握り、摂政・関白や院政といった仕組みを否定した政治。                         | 後醍醐天皇は、退位した天皇が実権を握る「院政」や、藤原氏などが天皇を補佐する「摂関政治」を否定し、延喜・天曆の治と呼ばれる平安時代中期の天皇親政を理想としました。しかし、すでに社会の実権は武士に移っていたため、この復古的な天皇中心の政治方針は、時代の流れと食い違い、多くの混乱を招く結果となりました。                                   |
| 問9  | 答え 2<br>鑑真 → 最澄 → 菅原道真 → 足利尊氏                                         | 鑑真は奈良時代に唐から来日し、大宰府の戒壇院で戒律を伝えました。最澄は平安時代初期、遣唐使として渡海する直前に大宰府で修行を行っています。菅原道真は平安時代中期に藤原氏との政争に敗れて大宰府へ左遷されました。足利尊氏は鎌倉幕府滅亡後の南北朝時代に、一度京を追われた後、九州で勢力を立て直すために大宰府近郊に滞在しました。                         |
| 問10 | 答え 3<br>源頼朝が守護・地頭を設置して全国支配の基礎を固めた後、承久の乱で後鳥羽上皇を破って六波羅探題を置き、支配を西国まで広げた。 | 鎌倉幕府は源頼朝の時期に守護・地頭を設置し、土地の管理や警察権を握ることで支配の基盤を作りました。1221年の承久の乱において、幕府打倒を試みた後鳥羽上皇が隠岐へ配流されると、幕府は京都に六波羅探題を設置して朝廷の監視を強めるとともに、それまで影響力が弱かった西国へも支配権を拡大させました。南北朝の合体や応仁の乱は、その後の室町時代における出来事です。        |
| 問11 | 答え 4<br>室町幕府の第3代将軍である足利義満が、観阿弥・世阿弥親子の芸を高く評価し、手厚く保護したこと。               | 金閣を建立したことで知られる足利義満は、観阿弥・世阿弥親子の才能を見出し、強力な後援者となりました。将軍という時の最高権力者が保護を与えたことで、能は武家や公家の好みに合う、精神的で奥深い「幽玄」という美意識を重視する芸術へと高められました。江戸時代の式楽化や、出雲の阿国の活動は時代背景が異なります。                                  |
| 問12 | 答え 2<br>建武の新政において公家が優遇され、恩賞などに不満を持った武士たちが足利尊氏をリーダーとして反旗を翻したこと。        | 後醍醐天皇が目指した理想的な天皇親政（建武の新政）は、土地の所有権の確認が遅れたり、武士よりも公家を重用したりしたため、倒幕に協力した武士たちの期待を裏切るものでした。この混乱の中で、武士の利益を代表する立場となった足利尊氏が離反し、京都の朝廷（北朝）を擁立しました。これに対し後醍醐天皇が吉野（南朝）で正当性を主張したため、約60年に及ぶ内乱へと発展しました。    |